

## 令和5年度 第1回柳井市総合教育会議 会議録

### 1 会議の開催

- (1) 日 時 令和6年1月12日(金) 開会 午後1時15分  
閉会 午後2時40分
- (2) 場 所 柳井市役所 3階大会議室

### 2 出席者

市 長	井原 健太郎
教育長	西元 良治
委 員 (教育長職務代理者)	西原 光治
委 員	厚坊 俊己
委 員	横山 志磨
委 員	瀬山 真紀子

### 3 出席事務局委員

教育部長	三浦 正明
教育部次長 (図書館・サンビームやない担当)	藤村 英明
教育総務課長	室田 和範
学校教育課長	河井 悟
生涯学習・スポーツ推進課長	大岡 弘明
学校給食センター所長	下前 真一
教育総務課長補佐 (書記)	西本 佳孝

### 4 傍聴者

なし

### 5 協議事項

- (1) 今後の水泳授業の在り方について

### 6 議事経過

- (1) 開会

教育部長から、令和5年度第1回柳井市総合教育会議の開会宣言があった。

- (2) 市長あいさつ

本日は令和5年度の柳井市総合教育会議ということで、教育委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

令和6年が始まりましたけれども、お正月早々に世情が騒然とするような災害や事故が発生しているということで、なかなか「明けましておめでとうございます。」というふうにご挨拶させていただくことが躊躇するような状況ですけれども、本年もどうかよろしく願いいたします。

折角ですので、災害関係の主な支援についてお話しをさせていただきますけ

れども、柳井市ではいろいろな備蓄品を持っていますので、石川県には提供可能なリストをお渡ししたり、また、市営住宅を提供させていただくことを申し出ております。ただし、今回は隣接する県も含めて何度も災害を経験しており、支援の部分ではコントロールされた形になっていていきますので、現時点では石川県から柳井市に対する要請はないという状況でございます。

民間の方は個別に支援物資を送られたり、商工会議所さんは日本商工会議所を通じて義援金の計画をされておられるということでございます。また、昨日から市役所も各出張所に募金箱を設置させていただいておまして、募金箱を設置する前から多くの方々にお越しいただき、少しでもお役に立てて欲しいということで、既に50万円を超える多額の募金をお預かりしている状況でございます。

それはそれといたしまして、今年はパリオリンピックが開催され、河村勇輝選手や保木卓朗選手の活躍も期待されますし、その前には柳井商工高校の7連覇を目指した選抜大会も控えていますので、特にスポーツ柳井ということでは大いに注目をいただけないかと思えます。

一方で教育に絞りますと、ちょうど今、新年度予算のいろいろな協議をしております。ハードもソフトも米百俵の精神でかなり注力をしてきている中で、算数を重点的に強化していこうということも柳井市独自に取り組んでいただいているということでございます。引き続いていろいろな課題がありますけれども、本年もどうか教育委員の皆さん、その背景には沢山のご経験と多くの方々からのお声がすでに集まっていると思えますので、そうしたものを通じて本市の教育のより良い形を目指していくために大きな力をいただければと思います。

そうした中で、今日は総合教育会議ということではありますが、こちらは平成27年に始まっておりまして、今日が15回目でございます。テーマとしては、「今後の水泳授業の在り方について」ということで、かなり焦点が絞られたテーマになりますけれども、現状・これからの展望を含めていろいろな課題があるということを知っていただきたいということもあるのかなと思えます。

水泳授業ですが私は非常にトラウマがありまして、はっきり言って苦痛で苦痛で仕方がなかったという経験がございます。小学校6年生で初めて25m泳ぐことができたことを卒業文集に書いたらとても苦手の種目でした。

この水泳授業が如何にしてこの国で始まったのかという経緯を含めて勉強させていただいております。そういう意味では華やかな水泳競技だけではなく、多くの人命が失われたことを契機に水泳授業が展開されてきたということで、改めて水泳授業についてご議論いただくことは、またひとつ大きな意味があると思えます。

少し長くなりましたが、今日の会議も含めまして本年もどうかよろしく願いいたします。ありがとうございます。

### (3) 協議事項

(教育長)

それでは、早速協議事項に入らせていただきたいと思います。テーマの「今後の水泳授業の在り方」について、事務局から説明をお願いします。

(河井課長)

お手元の資料をご覧ください。今から説明させていただく内容は、これから関係者と協議を始めていくためのたたき台となるもので決定事項ではありません。その旨、ご了承のほどお願いします。

#### ◇水泳授業の現状

現在、各学校では晩春から秋口にかけて水泳授業を実施しているところです。しかしながら、学校としては、「プールの管理がたいへん」であること。教育委員会としては、「施設の維持経費にお金がかかる」ということ。保護者としては、「日射病や熱中症」等の健康面での心配があるということ。そして、みなさん共通として「施設や設備が古い」など、それぞれのお立場からいろいろとご意見や課題を伺っていることから、このたびご協議をお願いした次第です。

市内小・中学校14校のうち現在6校が自校プールを使用し6・7月に実施しています。7校は、アクアヒルを使用し6月～9月に実施しています。平郡東小学校は、海で水泳の授業を実施しています。小学校の体育の授業は年間105時間程度実施しており、そのうち10から12コマを水泳の授業に割り当てています。内容としては、別冊の資料A、資料Bの1ページから9ページに学年に応じた指導内容等を示しています。10ページの資料Cには児童生徒数及び実施場所を示しています。

#### ◇自校プールの課題等

自校プールを使用している6校の課題については、別冊11～13ページ資料Dに施設の詳細を示しています。柳井小及び新庄小のプールは56年経過しており、一番新しい柳井中のプールも30年経過している状況です。別冊13ページの修理履歴のとおり、これまで適宜対応してきておりますが、プール層塗装剥離やプールサイドの劣化等の経年要因による課題の発生は否定できません。また、ポンプ循環ろ過機等の劣化等の問題も出てきています。

もう一つの課題として、教員の負担があげられます。別冊14～15ページ資料Eにありますように、毎日の水温・気温・残留塩素濃度等の測定など、水泳指導期間中にはたくさんのプール管理業務を要し、その業務に大きな負担を感じている学校もあります。

#### ◇アクアヒルの課題等

続いて、アクアヒルを使用している小中学校7校の課題等についてです。メリットとしては、

- ・「日射病、熱中症対策になる」ということ

- ・「天候に左右されず計画的に授業を実施できる」ということ
- ・「教員のプール管理の負担を軽減できる」ということ
- ・「温水により体調不良が出にくい」などがあります。

デメリットとしては、

- ・「体調不良の児童生徒が出たときの対応が複雑である」ということ
- ・「利用が火曜日～金曜日の10時からに限定される」ということ
- ・「学校からの移動に時間がかかってしまう」ということ
- ・「利用時期の調整で10月に実施することになる学校もある」ということ
- ・「スクールバスを利用するための調整がたいへんであること」などがあります。

別冊16ページ資料Fに今年度の利用実績をあげていますが、5月23日から10月3日まで延べ44日58回、バス利用96台により実施しています。別冊17ページの資料Gは、現状の使い方での来年度のスクールバスとアクアヒルの利用経費を示しています。

#### ◇将来的な提案等

3ページ下段のシートにこれまでの現状を踏まえてベースとなる将来的な提案をあげています。柳井中学校と平郡東小学校以外の小・中学校12校の水泳授業を「アクアヒル」または「柳井スイミング」を利用して行うというものです。

4ページ上段のシートに経費の増減をあげています。送迎のためのバス使用料とアクアヒルと柳井スイミング利用料は増加しますが、修繕料・薬剤や水質検査にかかる経費や水道料及び将来にわたって見込まれるプールの解体や改築費用といった見た目の経費は大幅に減少すると見込まれます。

単に経費を抑えることが今回の提案ではなく、将来的な水泳授業へのプラス提案を3つさせていただきます。

1つ目は、4ページ下段「水泳教室にDX（デジタルトランスフォーメーション）」です。防水タブレット等のデジタル機器を用いて、課題を可視化しその解決を図るものです。このことにより児童生徒自身で課題を見て理解し、解決への糸口をつかんでいく、自分を客観視する力の育成をねらいます。

2つ目は、5ページ上段「水泳授業に働き方改革」です。授業に外部指導員を導入し教員の負担軽減等を図るものです。水泳指導が得意ではない教員の負担軽減だけでなく、子どもたちにとってより専門的な指導を受けることが可能となります。

3つ目はシート下段「水泳指導に生きる体験を」です。授業時数が少ない中ではどうしても命を守るための授業内容に学校間の差が生じてしまいます。救命道具を実際に使用した実体験の授業を行うことで将来に役立つ体験として生きる力の育成を図ります。

以上で「今後の水泳授業の方向性について」の説明を終わります。

(教育長)

ありがとうございました。

それでは、ただ今事務局から説明がございましたので、委員さん方から順にご意見等をいただきたいと思います。

(横山委員)

水泳授業は、各学年で年間10～12時間行われているということですか。

(河井課長)

各学年で年間10～12時間程度行われています。

(教育長)

実際に子どもが水泳を学ぶ時間数ですが、天候に左右されるため、雨天や熱中症の危険がある場合に中止になると時間数は少なくなります。

(横山委員)

昨年の中学校の状況ですが、天候などにより授業数が減り、1学年2時間くらいしか取れなかったと聞いています。現状では屋外プールで水泳授業を行うことは難しいと思いました。

資料には先生方の業務負担が大きいとありますが、毎朝の水温・気温の測定は先生方にとっても負担になりますか。

(河井課長)

毎朝水温や気温だけではなく塩素濃度を測定し必要に応じて塩素を投入します。また、虫が浮いていないかなどプール全体の状況も確認しています。日によっては、ろ過機のトラブルもあります。

特に1時限目から授業がある日は勤務時間前から作業をしているため、大きい負担を感じている学校もあります。

(瀬山委員)

アクアヒルは一般の方も利用していますが、小中学校の水泳授業の実施で一般の方から苦情等は出ていませんか。

(大岡課長)

特に苦情等は聞いていません。

(三浦部長)

小中学校の水泳授業は児童生徒用のレーンを割り当てて使用しており、一般の方が利用できないという状況はありませんので、特に苦情等は出ておりません。

(厚坊委員)

水泳授業は体育授業全体の10%くらいを充てるのが一般的ですが、実際には天候等により10～12時間確保できるかどうか難しい。学習指導要領では、中学校でプールが無い場合は2～3時間の座学でも可ですが、小学校では水泳授業が必須だと思う。泳げない子が泳げるようになるためには約20時間かかると言われてしますので、10時間程度で泳げるようになるには難しい状況ですが、少しでも泳ぎ方を知ることや水に慣れることが大切だと思う。

先程、10月頃に水泳授業を実施するという説明がありましたが、教育の立場

から言うと、子どもたちがプールや海に行く機会の多い夏休み前に安全指導も含めた水泳授業は必要だと思う。

(西原委員)

まずは現状を分析すること、そして理想（あるべき姿）とのギャップをどのようにして埋めていくのが重要だと思う。根底にある現状は、年間105時間の小学校の体育授業で水泳授業は約10%ということ。泳げるようになるには少し時間が足りないけれども、授業の一環なのでこの辺りが妥当ではないか。

現状2のメンテナンス関係について総合的に分析してみると点検やろ過装置等の作業を教員がされている。これは教員のコア業務ではないと捉えてもいいので、働き方改革の観点からも効率化が図れるところは改善していくと良いと思う。

現状3のメリット・デメリットについて、いろいろな考え方があるので一概に数値で表すことができないかもしれないが、どちらが大きいかを焦点に当てたら良いと思う。

実績として約半数の小中学校がアクアヒルを利用されているので、課題や問題点を掲げながら次に進めていただきたい。移動時間に片道10分から20分程度かかることがデメリットだが、どのように対応されるのか。移動時間の穴埋めで授業が延びることはないのですか。

(河井課長)

移動に時間を要する学校もあるので、業間時間を活用して移動時間に充てるなど授業に支障がないように各学校で工夫をしています。

(市長)

先ほど瀬山委員から「アクアヒルの一般の利用者から苦情はないのか」というお話がありましたが、実は違った視点から、「あまりにも利用者が少ない」「特に平日は自分1人で泳いでいる時間もある」というような苦情を頂くことがあります。あれだけの投資をして年間を通して営業していることを考えると、多くの児童生徒に利用していただけることは市としてはありがたいと思います。

厚坊委員から、「海やプールに行く機会が多い夏休み前に授業を行うことが理想的である」というお話がありましたが、海ということで違う視点ですけれども、毎年伊保庄マリンパークの安全祈願祭（海開き）に参加しますが、海水浴客は本当に激減しています。そういう意味で水泳は夏にするものという発想を変えて、年間を通じて暑い日も寒い日も雨が降っても雪が降ってもアクアヒルのプールを使うことができますので、夏＝水泳という考え方自体を見直していくことも大事だと思います。

(教育長)

今後に向けての提案等も出て参りましたので、これから柳井市として小中学校の水泳授業をどのようにしていったら良いかという視点で委員さん方からご意見等をいただきたいと思います。

(厚坊委員)

提案では、柳井中学校は自校プール、平郡東小学校は海、他校はアクアヒルと

あります。小規模校はスクールバスで移動できると思いますが、例えば柳井小がアクアヒルに行くとしたら大人数の児童をどうやって運ぶのかということになる。大規模校はプールの維持管理を考えながら、水泳授業期間中だけ簡易の屋根を張るなどして熱中症の対策をすることは可能なので、全ての学校がアクアヒルで水泳授業というのはどうなのかと思う。

(横山委員)

提案では、平郡東小学校は海とありますが、他の小学校との交流学习で一緒に水泳授業を行うことはありますか。

(河井課長)

今年度は交流学习で水泳授業を実施したという実績は聞いていません。また、来年度の計画も未定ですが、実施することは可能です。

(教育長)

厚坊委員からも意見がありましたが、児童生徒の送迎は課題のひとつです。

(三浦部長)

児童生徒の送迎については、スクールバスだけではなく民間のバスを活用した移動も考えています。その他の維持経費については、1回の作業で100万円単位の費用が必要になるので、そういった費用を毎年かけるよりもバス借上料(4～8万円/回)の方がコスト的には経費削減に繋がると考えています。

(厚坊委員)

移動についてはそうですが、アクアヒルでは3・4コースしか利用できないので、大規模校の児童は何をしに行ったのか分からない状況になると思う。

維持管理の費用面も理解できますが、せめて柳井小学校のような大規模校は自校プールで水泳授業を実施できるようにしていただきたい。

(三浦部長)

貴重なご意見をいただきました。その辺も含めて様々な視点で検討していきたいと思います。

(厚坊委員)

薬剤や水質、ろ過機の操作等に関しては、体育の専門教員はいつもやっているのですが、専門ではない先生が当番でやるというのは非常に苦痛だと思う。ある程度やり方さえ分かれば事務的な作業になるので、例えば、水泳授業期間中は地域の学校応援団の方に早朝と夕方の作業をやっていただくと先生方の負担軽減に繋がると思う。

(三浦部長)

そういった諸事情やいろいろな検討材料も含めて考えていきたい。経費の軽減が目的ではないので、必要な経費は当然投資していきます。

(教育長)

水泳授業の期間は、雨の日も毎日勤務時間が始まる前に教員がプールに行ってお塩素濃度を測ったり、薬剤を入れたり、ろ過機を動かして水質を管理しています。また、終業前には機械を止めに行き、プールの虫やゴミを取り除いていますので、

たとえ当番制でも正直なところ負担感はあると思います。

働き方改革の視点からいろいろな業務の見直しを行っています。プラス提案で、現在の教員による指導から水泳インストラクターの導入による教員の負担軽減を挙げていますが、このあたりはいかがですか。

(厚坊委員)

教員の働き方改革というのは業務内容も大切ですが、やはり「人」だと思います。本来的には小学校に体育専科の先生を配置して専門的に教えることも大切です。小学校の先生は全教科の免許ということになりますから、当然体育の指導もしないといけない。昨今の若い先生方は特に運動の経験が非常に少ない。水泳といっても水泳実習が少しあっただけなので指導の仕方を教えられているわけではないから、どうしても本を読みながら、考えながら指導するようになる。

柳井市に専門のインストラクターがおられたら、あるいはアクアヒルに常駐しておられたら先生方の負担は非常に楽になる。ただし、教員はそれに甘えるのではなくて、子どもたちと一緒にプールに入って水泳授業をするという姿勢をぜひ持っていただきたい。

(三浦部長)

どうしてもインストラクター頼りになってしまうところもありますが、教員もしっかり学ばなければいけないという視点も必要だと思います。

(厚坊委員)

水泳は泳げるか泳げないか、水に顔をつけられるかつけられないかで個人差が非常に大きいので一斉指導は難しい。水泳が苦手な子や泳げない子をいかに水に慣らして泳げるようになるかということが大切ですが、4段階くらいに分けて個別指導するためには指導者がたくさん必要になるので、そこを教員が分担して指導することがとても重要だと思う。

(横山委員)

アクアヒルのプールの水深はどのくらいですか。

(三浦部長)

プールの床が可動式になっていますので、水深を調整して使用しています。水深は、1.2 mと1.0 mの2段階です。

(横山委員)

小学校低学年で水深が1.0 mは、深いのではないですか。

(三浦部長)

小学校低学年は、プールのレーンとあわせて水深の浅い児童プールを使用しています。

(教育長)

現状では、5月下旬から10月上旬くらいまで年間を通じてアクアヒルを利用していますが、時期的なものについて学校の意見はいかがですか。

(河井課長)

水泳授業の実施は、いずれの学校も6月～7月を希望しています。

(教育長)

せっかくの温水プールなので有効に使用できればと思っておりますが、小学校体育連盟への記録の提出期限が10月上旬ということが制約になっていると思います。その辺りの課題をクリアできたら、もう少し時期を延ばせるので年間のプール使用日数に余裕が出てきます。

保護者の立場から、気温が低くなった時期のプール利用というのはいかがですか。

(瀬山委員)

小学生は心配ですが、例えば柳井中学校の水泳部は結構寒くなるまで屋外で部活動をしていますのでそれほど心配はありません。どちらかと言うと日差しが強い夏の時期のプールサイドの方が心配に感じます。年々気温が上昇して夏場の暑さが耐え難い状況なので屋内プールの利用は安心です。

(教育長)

現状はいくつか課題がありますが、皆様方からご意見を出していただけると事務局もいろいろと検討ができると思います。

(西原委員)

資料の最後のページに水泳授業のプラス提案で「生きる体験」が掲げられていますが、水泳の技術だけではなくて防災の観点からもいろいろな形で取り組んでいただきたい。日常の訓練が有事の時に繋がると思う。

インストラクターに技術面を専門的に指導していただけることは良いと思うが、丸投げにするのではなくて教員も一緒に指導を受けていただきたい。

(教育長)

屋内プールを利用して水泳授業を行っているのは、県内では柳井市くらいと認識しています。子どもの水泳授業の安心安全(熱中症の防止など)、生きる体験、泳力を身に付けさせるためにも屋内プールを活用していくことは必要だと思います。

その他、何かご意見等ございましたらお願いします。

(厚坊委員)

教育委員会として課題等をまとめていただいて、現場の意見を聞きながら、これからの方向性をご理解いただく中で進めて行かなければいけない。

(教育長)

ありがとうございました。委員さんのご意見を参考に、事務局としても改めて精査に努めてください。

(市長)

将来的には柳井中学校だけが自校プールで、平郡東小学校を除いてすべてアクアヒルか柳井スイミングという提案になっていますが、大きな課題として現状で水泳授業を実施しようとするアクアヒルの利用を増やすことは無理ということですか。

(三浦部長)

期間を限定すると難しい状況なので利用期間についてはフレキシブルに考えないと前に進みません。1年間の中でアクアヒルをどのように活用していくか検討する必要があります。現状では12月を除いた11ヶ月間の中でどのように利用していくのかというところを考えなくてはいけないと思っています。

(市長)

そうすると何十年も続いている記録会の経緯がありますので、その記録会で記録を提出するためにフレキシブルな対応ができないということは時代に合わなくなってきていると思います。提出された記録は、何か活用されているのですか。

(三浦部長)

基本的にデータは取っていますので、活用については確認してみたいと思います。記録会の記録提出を目的として、それに合わせて水泳授業の時期を決めていく視点は外しても良いと思っています。

(市長)

記録を提出しないといろいろな問題が起きるのかもしれませんが、これから子どもたちの人数が激減していく状況の中で記録会がどうこうということではなく、事業を大きく見直していくべきタイミングにあると思います。

本日は、年に一度の総合教育会議ということですが、平素から様々なご意見、ご指導をいただければと思います。長時間ありがとうございました。

#### (4) 閉会

教育部長から、総合教育会議の閉会の宣言があった。